

理科 教科経営案

1. 本校の教育目標

「9年間の小中一貫教育を通して、優しさと確かな学力を身につけ、未来に向かってたくましく生き抜く梶原人の育成」

2. 研究主題

基礎学力の定着と学力の向上を目指した学習指導法の工夫・改善
—9年間の系統的なICT教育の構築—

3. 教科の目標

3～6年：自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な、①自然の事物・現象についての理解、観察、実験などに関する基本的な技能②問題解決の力③自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を育成することを目指す。

7～9年：自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

4. 経営方針

- (1) 自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的な見方や考え方を養い、観察・実験など自然から直接学ぶ自主的・主体的な学習を通して、自然を科学的に探究する能力の基礎と態度とを育成する。
- (2) 「実感的で、科学的な思考が深まる授業」を目指す。自然の事物・現象についての知識や理解を深める場面では、規則性を発見するなどの学習過程を柱として、児童が知識を獲得するとともに科学の手続きをも身につけさせるよう授業構成の工夫をする。また、児童一人ひとりが、自然の事物・現象についての科学的な見方や考え方を身につけることにより、探究的な学習の充実を図る。

5. 重点目標

- (1) 児童の身近な自然を対象として、自らの諸感覚を働かせ体験を通じた自然の事物・現象と科学的にかかわる中で、自然に接する関心や意欲を高め、そこから主体的に問題を見いだす学習活動を重視する。
- (2) 児童が見通しをもって観察・実験などを行い、自然の事物・現象と科学的にかかわる中で、問題解決の能力や態度を育成する学習活動を重視する。
- (3) 児童が観察・実験などの結果を整理し、考察・表現する活動を行い、学んだ事を生活とのかかわりの中で見直し、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図る学習活動を重視する。